

令和2年度 本校の研究について（案）

岡山市立蛍明小学校

1 研究テーマの設定

本校はこれまで、足守中学校区における「学びの系統表」をベースとした授業づくりについて研究を進めてきた。具体的には、「学びの系統表」に明記されている「友達や自分の考えのよさやちがいに気づく」（低学年）「友達や自分の考えのよさやちがいを認め、取り入れる」（中学年）「友達や自分の考えのよさやちがいを生かす」（高学年）という学び合いの場面において目指す姿を、教師の支援によって実現させていこうとするものである。

平成31年度は各教科の中で、「学びを深める子どもの姿」を具体的に設定し、「学びの深まり」を目指して、岡山市教育研究研修センターが発行している『アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのガイドブック』を参考にし、学びを深める姿を実現するための指導・支援の工夫の在り方を探っていた。その結果、子どもたちは「友達や自分の考えのよさやちがいに」目を向け、自ら学びを深めることができるようになってきた。これは、日々の教科のふり返りや自主学習のふり返り、教師の見取りの中でも検証することができた。

そこで、令和2年度も、研究主題を「学び合いを通して、学びを深める子どもの育成」（4年次）と設定し、「学びを深める子どもの姿」にさらに近づくための指導・支援の工夫を中心に、研究の継続・発展を図る。具体的には、以下のような方法で、学びを深める姿を実現するための指導・支援の工夫の在り方を探っていく。

2 研究の方法

指導案作成

- ・本時で期待する子どもの姿（学びを深める子どもの姿）を設定する。
- ・本時における「友達や自分の考えのよさやちがいを」具体的に示す。
- ・指導・支援の工夫（◇）について、授業者が最も有効だと思うものを（◆）として示し、研究協議においても、◆を中心に協議を進めるようにする。
- ・「友達や自分の考えのよさやちがいに」「気づく」「認め、取り入れる」「生かす」ための指導・支援の工夫を **ALの視点（対話的な学び）を取り入れながら考える。**（表1）
- *指導・支援の工夫を考える際には、別紙「ALの視点表」を参考にする。様々な教科で指導・支援の工夫を蓄積していく。
- *各教科の本質に迫れるように、指導案を作成する際には、別紙「各教科の見方・考え方のイメージ」を取り入れる。

表1 本校の研究に取り入れるALの視点（ペア・グループ・全体で学び合う場面において）

「対話的な学び」を実現するための条件		条件に着目した指導方法10のヒント（例）
必要感・目的	交流したいという必要感や何のために交流するのか目的がある。	① 考えの立場が分かれたり根拠が多様に生まれたりする話題を提示する。 ② 交流活動に入る前に、考えを仲間分けする、よりよい考えを選ぶ等、目的をはっきり確かめる。 ③ 焦点化された問いや紹介したい感想がある等、交流の場を設定するタイミングを工夫する。
安心感	自分の考えが受け止められているという安心感がある。	④ 互いの考えが受け止められるような机の配置や、情意面に配慮した話し合いのさせ方を助言する。 ⑤ 友達の考えのよさを取り入れるワークシートや書き込みのさせ方の工夫をする。
多様な表現	説明のための多様な表現を使うことができる。	⑥ 図、表、グラフ、記号、付箋紙、タブレット等も含め、説明のための多様なツールを取り入れて可視化する。
多様な他者	多様な他者と考えを相互に交流する場がある。	⑦ 目的や内容に応じたグループの編成やサイズ、ジグソー、ワールドカフェ等の学習形態を工夫する。 ⑧ グループ間で役割分担しながら、調べたことをホワイトボード等を使って交流する場面を設ける。
つながり方	友達同士の発言のつながり方が分かる。	⑨ 話し合いの手引きカードや話型を提示し、つながり方のモデルを示す。 ⑩ 子ども同士の考えを比べる、教材へ戻す、話題を整理し直す等、コーディネーターとして発言をつなぐ工夫をする。

『アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善「主体的・対話的で深い学び」を実現するためのガイドブック』（岡山市教育研究センター 2018年7.8ページ）から一部抜粋

授業

- ・授業での子どもの見取りを行う。

研究協議

- ・1～3の手順で学びの深まりを検証する。
 1. 本時で期待する子どもの姿は見られたか。
 2. ALの視点を取り入れた指導・支援の工夫は効果的だったか。（◆を中心に協議を焦点化させる）
 3. その結果、学びの深まりは見られたか。

授業後

- ・視点に沿ったふり返り（授業の終末・自主学習）による検証をする。

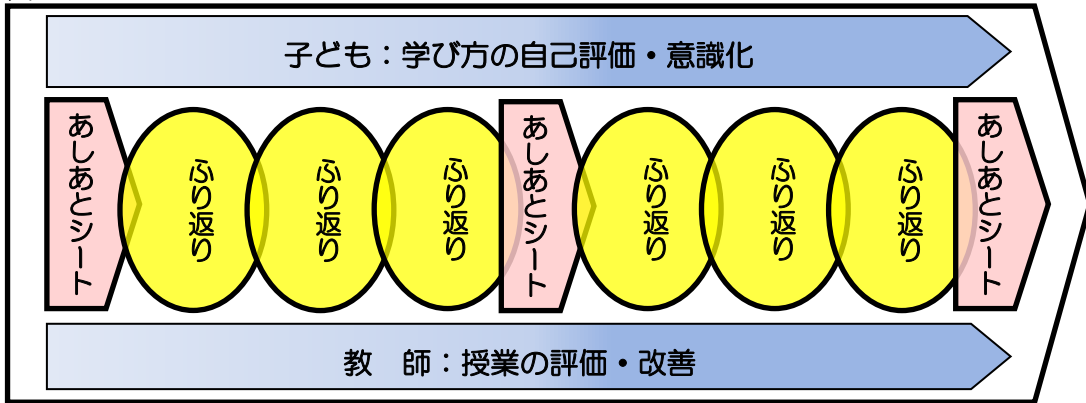
3 検証方法

学びの深まりの検証については、授業での子どもの姿と授業後の視点に沿ったふり返りの2点から検証をしていく。授業での子どもの具体的な姿を中心に検証を進めるため、客観的にとらえられるよう小集団や全体で見取ったりする。

視点に沿ったふり返りも、短期的・長期的の両方を継続していく。日々の授業のふり返りについては、自主学習の中で積み重ねていくが、授業の中でも取り組むことができるように、時間の確保についても考えていく。

また、子どもの学びの深まりは1時間の授業だけで検証できるものではない。そのため、あしあとシートを活用することで、年間を通して子どもの変容を追えるようにしたい。あしあとシートとは、中学校区で設定した目指す子どもの姿を示すものであり、子どもたちは年3回自己評価を行うことで、自分の学びをふり返ることができる。(図1)

図1 ふり返りモデル



4 研究組織

研究組織は次のように構成する(図2)。 図2 研究組織

- 研究推進委員会
 - ・研究の方向の決定
 - ・研究計画の作成
 - ・研究日程、部会日程の調整
 - ・研究のまとめの作成
- 校内研究全体会
 - ・研究内容、方向、課題についての共通理解
- 授業づくり部会
 - ・指導案の作成、検討、協議会の実施
 - ・低学年部会、中学年部会、高学年部会、特別支援教育部会の4部会で運営する。
- 学力向上部会(学力向上委員会)
 - ・学力向上の推進：チャレンジタイム＝CT(朝学習)、ぐんぐんタイム＝GT(放課後学習)の計画
 - ・学習習慣の形成：家庭学習の手引き、家庭学習カレンダーの作成
 - ・各種学力調査の分析
 - ・自主学習の充実



5 研究計画

次のような計画で研究を進める。公開授業は年間1人1回行う。公開授業表を作成して、公開授業日が偏らないようにする。

- 4月 : 研究の方向について共通理解
- 4月～7月 : 公開授業
 - 研究主題に基づく授業実践
 - 指導案検討(学プロ公開授業)
- 7月1日 : 学プロ公開授業(学区公開授業を兼ねる)
- 夏季休業中 : 授業づくりについての研修
 - 指導案検討(食育公開授業)
- 9月～1月 : 公開授業
 - 研究主題に基づく授業実践
- 2学期中 : 食育公開授業
- 1月 : 研究の振り返り・来年度の研究についての協議
- 2月 : 来年度の研究についての協議(学プロ1年次に向けて)
- 3月 : 研究のまとめの発行